

平成 29 年度 『社会福祉法人昴会』 事業報告書

1. 平成 29 年度重点課題からの振り返り

平成 29 年度事業計画書にて、法人の重点課題として以下の 3 点を掲げた。

- (1) より支援の質を高めていけるような取り組みを実施する。
法人虐待防止委員会を中心に、虐待防止や不適切な行為の掘り起こし、振り返りを行い、支援や関わりの質のアップと改善を行う。
- (2) 新事業所の安定的な運営を目指す。
中区西丘町の新事業所『アグリッシュ西丘』の運営が円滑に行えるように、行政、他機関、地元自治会や近隣住民、作業協力を行う地元農家と協議・調整をしながら、利用者と地域住民に喜ばれる事業所運営を目指す。
- (3) 改正社会福祉法に沿った法人運営を行う。
理事会、評議員会の適正な開催など、新たな体制のもとでの円滑な運営を目指す。
- (4) 安定的な人材の確保と質の高いサービス提供ができる人材の育成により一層努める。

以下、重点課題それぞれについて振り返りを行う。

- (1) より支援の質を高めていけるような取り組みを実施する。

①法人虐待防止委員会の取り組み

今年度も、四季の郷、第一大山荘・第二・第三大山荘、細江あすなる作業所、大山ファーム、アグリッシュ西丘の現場職員から各 1 名ずつ虐待防止委員を任命し、計 8 回の委員会を実施と 3 月には法人の全職員対象の人権擁護研修会を開催した。

各委員会の内容は以下の通り。

回	月日	主 な 内 容 等
1	5 月 29 日	法人虐待防止マニュアルの再考、虐待防止責任者・虐待防止マネージャーの選任、研修会参加報告 等
2	7 月 10 日	各事業所の状況確認、虐待防止職員セルフチェックの確認 等
3	10 月 19 日	上半期虐待防止職員セルフチェック実施集計報告（大山ファーム、四季の郷）及び意見交換、対策確認 等
4	11 月 13 日	上半期虐待防止職員セルフチェック実施集計報告（アグリッシュ西丘、細江あすなる作業所、グループホーム）及び対策確認 等
5	12 月 13 日	虐待防止職員セルフチェックシートの変更検討、研修参加報告 等
6	1 月 9 日	虐待防止職員セルフチェックシートの変更検討、法人研修会の内容検討 等
7	2 月 20 日	下半期虐待防止職員セルフチェック、法人研修会の内容検討 等
8	3 月 15 日	17：30～19：00 法人人権擁護研修会の実施 於；アグリッシュ西丘
9	3 月 20 日	法人人権擁護研修会の振り返り、下半期虐待防止職員セルフチェック実施集計報告（大山ファーム、アグリッシュ西丘、四季の郷）及び対策確認 ※グループホーム、細江あすなる作業所は次月 等

虐待防止職員セルフチェックのシートは、前年度に引き続き、厚労省担当課が作成した『障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き』に掲載のシートを使用した。セルフチェックの振り返りでは、『集計・分析という視点からだ、チェック項目のとらえ方にバラつきがあり、同じ基準での振り返りが難しい』との意見が出されたが、『変に細かく定義をしていくと、かえって表面化する量が減ってしまう。各職員が人権擁護の意識を高め維持していくことが第一の目的であるため、まずは各職員が感じたままを記載することが大切』との意見でまとめ、シートの修正は最小限にしてきた。また、セルフ

チェック集計後の分析や改善に向けた提言に対しては、各事業所で職員に返していくようにしてきた。

また、法人虐待防止研修会については、単に虐待防止の禁止を説明するのではなく、そもそもの福祉サービス提供事業所職員としての仕事・役割を再確認し、人権擁護への認識を再確認する機会とすることを第一の目的とした。当日は、業務の都合やパート職員の一部以外の職員（45名）が参加した。事後のアンケート結果では概ね好評であった。今回は法人内職員が講師となったが、次回以降は外部講師の研修会を行いたい等の意見も出されていた。

ただし、支援者としての知識や技術のスキルアップに関わる取り組みについては、今年度も各事業所が独自に行っていた状況であった。今回の法人人権擁護研修会の準備や実施の過程で、人権擁護に関わるテーマ以外の法人単位での研修の機会づくりへの要望も出されていた。前向きに検討していきたいと考えている。

② 苦情受付・解決体制

今年度は、法人としての苦情受付・解決体制での受理数は3件であった。5月の法人監事監査での監事からの苦情処理第三者委員への報告会の実施の意見を受けて、2月28日に、2人の第三者委員に四季の郷に来園いただき報告会を行った。第三者委員からは、●苦情の対応としてその場は解決がなされているが、その苦情（解決）の対応が法人全体の取り組みとして十分に反映されていないため、事象の再発の可能性が否めない。●苦情をより受け取ろうとするアンテナの度合い低いのでは、との意見が出された。

次年度は、提供されているサービスの質の確認の意味の加えて、利用者や家族に「満足度調査」の実施等を検討していきたい。

(2) 新事業所（『アグリッシュ西丘』）の安定的な運営を目指す。

就労継続支援B型事業所『アグリッシュ西丘』が、平成29年4月1日付で浜松市より指定認可を受け、定員20名でスタートした。利用契約は締結したものの体調不良等で安定的な利用ができないケースもあって、開所数ヶ月は通所者が数名という期間も見られた。

それでも年度終盤になって徐々に通所希望者の増加が見られた。導入している作業種目が安定してきたことや職員の通所者理解が進んだこと等も見られるようになり、運営面での見通しをつけることができるようになった。

(3) 改正社会福祉法に沿った法人運営を行う。

今年度は、5回の理事会と1回の定時評議員会を開催した。法人の運営は概ね円滑に行うことができた。ただし、運営の手続き的な面では、浜松市の担当課から細かな確認事項が伝えられていた。

また、改正社会福祉法に規定された社会福祉法人の地域貢献活動の実施については、具体的な実施案までには至らなかった。次年度の課題の一つである。

(4) 安定的な人材の確保と質の高いサービス提供ができる人材の育成により一層努める。

年度途中にはアグリッシュ西丘等の職員の補充や育児休暇の取得、年度末には家庭の都合等での退職が見られ、ハローワークや市社協福祉人材バンク等の公的な求人に加え、一般求人誌・求人サイトを利用しての求人活動を行う機会が多かった。現時点で業務に大きな支障が出ている訳ではないが、30年度以降、業務実施に支障が出たり他の職員の負担を増してしまうような人数不足と、他業種から入職する職員が増えつつあることや全般的に入職者の年齢が上がってきている状況からの質的な不足も感じられ、一層職員の研修の場が大切となってきた状況が見られた。

一方で、研修の実施については、『人権擁護・虐待防止』、『利用者の理解を深める』ことを主にして各施設・事業所ごとに実施をしてきた。年度末の法人虐待防止委員会主催の法人研修会の実施を契機に法人としての研修会の必要性が職員の中から高まる状況が見られ始めているため、30年度は、法人としての研修会の実施を考えていきたい。

2. 各事業の利用実績

施設・事業名		年間 開所日数	年間のべ 利用者数	1日平均 利用者数	事業定員	備 考
四季の郷	施設入所支援	365日	17,716人	48.6人	50人	
	生活介護	269日	13,623人	50.7人	55人	平均障害支援区分5.3
	短期入所	365日	1,209人	3.3人	8人	空床型を入れて10人定員
第一大山荘		365日	1,484人	4.1人	5人	
第二大山荘・第三大山荘		365日	4,265人	11.7人	12人	
細江あすなろ作業所		254日	4,290人	16.9人	20人	平均障害支援区分4.6
大山ファーム	就労移行支援	260日	434人	1.7人	6人	就労アセスメント含む
	就労継続支援B型	260日	6,143人	23.7人	22人	
アグリッッシュ西丘		259日	1,032人	4.0人	20人	
事業所合計			50,196人			

3. 法人評議員会の開催

第1回 平成29年6月23日(金) 14:00~15:45 於. 四季の郷会議室
(欠席者) なし

- (議案) 1. 平成28年度事業報告書案の審議
2. 平成28年度収支決算書案の審議
3. 監事監査の認定について
4. 社会福祉法人昂会定款の改定について
5. 社会福祉法人昂会定款細則の改定について
6. 社会福祉法人昂会役員報酬規程の制定について
7. 社会福祉法人昂会新役員の選出について
※報告事項

4. 法人理事会の開催

第1回 平成29年6月9日(金) 14:00~15:30 於. 四季の郷会議室
(欠席者) 監事1名

- (議案) 1. 平成28年度事業報告書案の審議
2. 平成28年度収支決算書案の審議
3. 監事監査の認定について
4. 社会福祉法人昂会新役員の選出について
5. 社会福祉法人昂会定款の改定について
6. 社会福祉法人昂会定款細則の改定について
7. 社会福祉法人昂会経理規程の改定について

第2回 平成29年6月23日(金) 16:00~16:15 於. 四季の郷会議室
(欠席者) なし

- (議案) 1. 理事長の選任について

第3回 平成29年10月5日(木) 14:00~15:30 於. 四季の郷会議室
(欠席者) 理事1名・監事1名

- (議案) 1. 平成29年度補正予算案の審議
2. 昂会役員・評議員報酬規程の改定について
3. 新事業に関わる土地の承認について

4. 委託相談支援事業の今後のあり方について

第4回 平成30年1月22日(月) 14:00~15:30 於. 四季の郷会議室

(欠席者) なし

(議案) 1. 昴会事業の状況について

2. 平成29年度補正予算案の審議

3. 昴会役員・評議員報酬規程の改定について

4. 就労継続支援B型(大山ファーム)の設備等整備積立金取崩の承認

第5回 平成30年3月28日(水) 14:00~15:45 於. 四季の郷会議室

(欠席者) 監事1名

(議案) 1. 平成29年度補正予算案の審議

2. 平成30年度事業計画案の審議

3. 平成30年度収支予算案の審議

4. 社会福祉法人昴会経理規程の改定について

※報告事項

5. 法人監事による内部監査の実施

平成29年5月26日(月) 13:00 から、安富 恒理事長、袴田章彦四季の郷施設長、伊藤利郎事務局長が同席し、伊藤秀俊監事、落合克能監事による平成28年度決算監査を実施した。

6. 借入金の償還

「第二大山荘」・「第三大山荘」及び「大山ファーム」建設資金として独立行政法人福祉・医療機構よりの借入金について、平成29年度は以下のように償還を行った。

<第二大山荘・第三大山荘>

平成29年	9月	利子	149,940	円
平成30年	3月	元金	3,570,000	円
平成30年	3月	利子	149,940	円
合 計			3,869,880	円

<大山ファーム>

平成29年	4月	元金	298,000	円
以後毎月10日計11回			3,278,000	円
平成29年	4月	利子	29,986	円
平成29年	5月	利子	29,700	円
平成29年	6月	利子	29,415	円
平成29年	7月	利子	29,129	円
平成29年	8月	利子	28,843	円
平成29年	9月	利子	28,558	円
平成29年	10月	利子	28,272	円
平成29年	11月	利子	27,987	円
平成29年	12月	利子	27,701	円
平成30年	1月	利子	27,416	円
平成30年	2月	利子	27,130	円
平成30年	3月	利子	26,844	円
合 計			3,916,981	円

7. 職員の状況

29年度中の職員の採用・退職状況については以下の通りである。

- 採用者 新卒 女性 1 名
 中途 <常勤> 男性 3 名／女性 1 名
 <非常勤> 男性 1 名／女性 6 名
- 退職者 <常勤> 男性 1 名／女性 2 名
 <非常勤> 女性 2 名

8. 各施設・事業所の事業報告

四季の郷

1. 四季の郷の支援目標

『生き生きとした暮らしの実現』を四季の郷の支援目標に掲げ支援を行ってきた。

2. 利用者の状況

利用者の年齢構成 (単位：名／施設入所支援利用者 50 名中・H30. 3. 31 現在)

	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	60 歳～	70 歳～	計
男性	0	5	11	2	4	2	24
女性	2	3	5	4	7	5	26
	最高齢 80 歳／最若齢 22 歳						

利用者の障害支援区分

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
男性				1	9	14	24
女性			1	3	11	11	26
	平均障害支援区分 5.3						

3. 具体的な取り組み

以下、29 年度四季の郷事業計画に沿って振り返りを行う。

(1) 常に人権を守る意識を土台にし、質の高いサービス提供に努める。

① QOL 向上委員会

今年度も、サービス管理責任者、主任を含め 5 名の職員での『QOL 向上委員会』を組織し、毎月委員会を実施した。委員会での取り組みは以下の通り。

●職員サービス自己評価の実施と前年度結果の集計及び改善に向けた取り組みの実施

…平成 29 年 3 月に 28 年度サービス自己評価を実施した。それを受けて、今年度は、支援マニュアルの再検討・再構築を重点的に行うこととなった。結果、利用者との関わりマニュアル、食事・排泄・入浴・身だしなみのマニュアルを作成した。

●昴会利用者の権利擁護のための職員行動基準順守に向けた取り組みの実施

…今年度も「呼称」や「身だしなみ」、「自己決定支援」、「気づき合い」の強化月間を設定し、ポスターの館内掲示や朝の放送等の周知を通して質のアップに努めた。

●利用者の意思決定への支援

(1) 利用者自治会の運営

…日頃の声掛けや関わりへの配慮や工夫と共に、利用者から選ばれた会長を中心に役員、その他参加希望者によって自治会の取り組みを行った。

日課や取り組み等についてもできる限り利用者に説明の機会を設けたり、イメージや選択がし易い食事面で利用者の希望をとってそれを実現できるように努めた。説明の際は、写真や実物を使って意思決定がし易いような工夫を行った。

月日	主 な 内 容	
4/20	自治会役員会	・親子遠足の弁当おかず希望とり ・セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め
5/23	自治会役員会	・親己遠足の弁当おかずの内容確認

		<ul style="list-style-type: none"> ・苦情受付体制についてわかりやすく説明 ・セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め
6/28	自治会役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り出店やオトラクションの希望取り ・自治会外出の打ち合わせ ・余暇活動の希望取り ・セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め
7/25	自治会役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りの内容確認 ・オレンジマラソン選手自治会壮行会の打ち合わせ ・セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め
8/26	自治会役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りの感想発表 ・秋の選択食の希望取り ・セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め
9/27	自治会役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジマラソン自治会壮行会の確認 ・秋祭りの企画の希望取り ・秋の選択食の確認 ・セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め
10/18	自治会役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の選択食の感想発表 ・衆議院選挙投票参加希望者の確認 ・秋祭りの内容確認 ・クリスマス会のランチメニューの希望取り ・セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め
11/28	自治会役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・秋祭りの感想発表 ・クリスマス会ランチメニューの確認 ・2月の選択デザート希望取り ・セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め
12/26	自治会役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会の感想発表 ・セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め
1/24	自治会役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・初詣の感想発表 ・選択デザートの希望取り ・寿司キャラバンのネタの希望取り ・セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め
2/21	自治会役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・選択デザートの感想発表 ・3月自治会総会の打ち合わせ ・セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め
3/9	利用者自治会総会	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の活動報告 ・次期役員募集の告知 ・役員お疲れさまパーティ

(2) 利用者希望に基づく一泊外出の実施

…平成28年度より定例的な実施を取りやめていた一泊外出であったが、一人の利用者の『ディズニーランドへ行きたい』という要望から数名の希望利用者を募り、10月24日・25日に一泊外出が実現できた。利用者の強い希望からの実施であったため、帰園後の参加利用者の満足度はかなり高かった。この取り組みを契機に、別の利用者からも要望が聞かれるようになったため、今後も利用者の気持ちに合わせた外出等を行っていききたい。

●身体拘束モニタリングの実施

毎月、利用者の状況と身体拘束記録表に基づき、身体拘束のモニタリングを実施した。

②虐待を防止する取り組み

法人の虐待防止委員会主導の元、年度内2回の虐待防止に関わる職員セルフチェックを実施すると共に、セルフチェック集計の結果をQOL向上委員会にて共有した。必要に応

じ、施設長、主任者会議と連携を行い、改善に向けた取り組みを行った。

(2) めりはりのある生活ができるように支援を行う。

①支援体制

●施設支援計画・モニタリング

今年度も、年度当初に前年度の支援状況の確認と支援計画に関する説明を利用者、保護者・家族または後見人とケース担当者の三者面談の中で実施してきた。また、10月にも再度利用者・保護者等と支援目標等についての確認を行い、利用者本位の支援の実施を心掛けてきた。

●生活支援体制

今年度は、A・B棟二舎制の生活環境をベースに支援を行ってきた。

二舎制にしたことで、A棟グループ（比較的行動範囲の広い若年層グループ）とB棟グループ（下肢機能が低下していた一定の医療ケアが必要な高齢者グループ）それぞれの生活ペースが作ることができ、継続的な支援や関わりが継続できるようになった。

反面、特にB棟利用者の下肢機能や嚥下機能等の低下からB棟利用者への介護度が増し、個々への細かな配慮や安心・安定した支援や介助の継続が難しくなっている状態も見られた。

●会議

今年度は、以下の会議を実施してきた。

・職員全体会議

半年に1回（4月・10月）開催。全職員出席。事務や医務、栄養の各部署からの連絡事項と共に、4月は施設全般の方向性の確認、人権擁護・虐待防止への取り組み、防災対策等の確認を行った。また、10月には、虐待防止セルフチェックの集計結果を受けたフィードバックや職員・家族がインフルエンザ等の感染症罹患の場合の対応の確認等を行った。

・男女別ケア会議

男女職員別で毎月1回ずつ実施した。サービス管理責任者・支援員・看護師・栄養士出席。利用者の状況把握や情報の共有、働きかけや取り組みの確認、ケース検討などを行った。

・給食会議

毎月1回開催した。施設長・事務局長、サービス管理責任者・看護師・栄養士・厨房職員が出席。食事の設備・内容、利用者への対応等に関する調整等を行った。

・主任者会議

毎月1回開催した。施設長、事務長、サービス管理責任者・主任及び副主任が出席した。支援全般の課題等の具体的な検討・調整等を行った。

・課業班代表者会議

今年度は年度初めより課業活動の見直しの議論があり、6月以降随時会議を実施した。サービス管理責任者、課業3グループの代表者が出席した。

・各委員会

※QOL向上委員会、危機管理委員会、地域交流委員会は別項で報告

②日中課業活動の支援

今年度も前年度に引き続き、以下の日中活動を実施した。

A. 平日の課業活動支援（生活介護事業での日中活動支援）

●匠・リサイクル班・・・作業中心のグループ

空き缶リサイクル作業、ペットボトルキャップ分別作業、フック組み付け作業、手作りキャンドル制作・梱包作業の4つの作業プログラムを用意し日中活動支援を行っ

てきた。

●こつこつ骨班・・・歩行中心のグループ

歩行活動は近くの公園を利用した、活動が単調にならないように5カ所ほどの公園を活用した。また悪天候時にはドライブを実施してきた。

●ワイワイグループ・・・高齢者等の機能維持活動中心のグループ

活動内容は、全体活動としてはゲーム・レクリエーション、映画鑑賞、音楽鑑賞等を行ってきた。また個別対応としては、歩行訓練を積極的に行ってきた。

加えて年度当初より、めりはりのある生活を目指し、○高齢利用者の活動のあり方○一日を通した活動の実施○作業棟の有効活用、を主な課題として、6月より課業班代表者会議を中心に課業活動の見直し検討を続けてきた。その中で、高齢利用者への取り組みの参考になることを目的に、他施設への施設見学、作業棟トイレのバリアフリー改修を経て、11月より新体制での課業活動をスタートした。

具体的には、今までの全体を3グループ分けた単位での活動から、原則A棟B棟単位の活動に変更し、日中活動時間以外の担当職員がそのまま継続的に活動の支援が行えるようにした。新体制での内容は以下の通り。

■A棟

- 作業活動
 - ・ボトルキャップ分別作業
 - ・手作りキャンドル制作・梱包作業
 - ・フック組み付け作業
 - ・空き缶リサイクル作業

- ドライブ・散歩

■B棟

- ドライブ・散歩

- 機能維持活動
 - ・集団活動・・・ゲーム、レクリエーション、カラオケ
 - ・個別活動・・・歩行訓練、軽運動
 - ・整体マッサージ・・・（希望利用者のみ）整体師によるマッサージ

B. 休日等のクラブ活動支援

今年度も、余暇活動として以下のクラブ活動を実施した。

●音楽クラブ

今年度も、季節に合った歌をうたうこと、鈴やタンバリン、太鼓などを利用した合奏、音楽に合わせた体操や手遊び等のプログラムで、音楽を楽しみ情緒の安定を図ることを目的に活動を行った。また、その発表の場の1つとして、近隣の高齢者施設に敬老の日訪問やクリスマス会での演奏を行った。

●競技クラブ

『わかふじスポーツ大会』（フライングディスク競技）、『オレンジマラソン大会』エントリーを目指し、出場競技の練習を行った。

●絵画クラブ

今年度も、12月に実施された『愛護ギャラリー展』出展を目指し、利用者個々の絵画づくりを中心に活動を行った。

●元気クラブ

平日の活動の補完的な意味も含め、散歩中心の活動を行った。

●家庭科クラブ

調理やおやつ作りを行った。

●作業クラブ

自閉症利用者を対象に、フック作業棟の軽作業活動を行った。

③行事活動の支援

今年度も、ねらい別に全体行事、グループ活動、誕生会・季節行事に大きく分けて、職員の役割分担の下で行事活動を行った。

A. 全体行事

●春の親子遠足・・・5月28日（日）

今年度も豊橋総合動植物公園に出掛けた。利用者、家族、ボランティア、職員の計107名の参加。

●夏祭り・・・8月5日（土）

昨年度より四季の郷単独での開催となったが、外の暑さの中で実施が危なくなってきたという理由から、昼食後に冷房が効いた館内での実施となった。時間的にも余裕が出たため、昨年度よりもじっくり楽しむことができた。また、出店等では、四季の郷保護者会の支援もいただけた。

●秋祭り&保護者会バザー・・・11月23日（木）

今年度も12月の「障害者週間」を踏まえて、地元大山町の自治会長に一日施設長委嘱を行った。また、浜松市内の吹奏楽団や地元グループの踊り、地元企業のゆるキャラの参加や出店、そして四季の郷保護者会主催のバザー等を学生ボランティア等の協力の元で、盛大に実施した。

●クリスマス会・・・12月23日（土）

今年度も浜松湖北高等学校吹奏楽部の演奏から会が始まり、四季の郷利用者自治会での意見に基づいて準備したランチの喫食、音楽クラブの発表や職員のパフォーマンス、保護者会役員が扮するサンタクロースからのプレゼント等、学生ボランティアの協力を受けながら、楽しい時間を過ごした。

B. グループ活動

今年度のグループ活動は、4月の利用者、保護者・家族面談にて個別に外出希望のうかがい、外出テーマ（『観光・散策』、『食事』、『買い物』）別に小グループを編成し外出を行った。

C. 誕生会・季節行事

今年度も、生活の“めりはり”に季節感を入れ込んでいきたいという理由から、お花見や七夕、節分などの企画を、誕生会との同時企画という形で実施してきた。

④健康を維持するための支援

●医療管理

今年度も、体調の変化の早期発見と早期対応に努めてきた。生活支援を行う支援員との情報共有や取り組みの確認・調整や食事形態や内容に対策が必要な場合には栄養士との連携を行ってきた。

服薬管理等の日常的な医療管理は嘱託医による月2回の定期受診に基づき実施してきたが、年2回の健康診断等で発見される糖尿病や高血圧、心疾患や呼吸器疾患等は近隣の内科や呼吸器科、循環器科等の専門病院に通院を実施してきた。他、歯科や皮膚科、耳鼻科、眼科、整形外科等、多くの通院も行ってきた。

今年度は特に下肢機能が低下している利用者の転倒事故による救急外来への通院が比較的目立った。介助なしで自分で立ち上がってしまう姿も見られるため、対応方法について、ケア会議を通して支援員と共に検討してきた。

今年度も利用者のインフルエンザの集団感染は見られなかった。職員の罹患もほとんど見られず、館内の加湿、手洗いの励行や抗ウイルス薬スプレーと二酸化塩素入りのストラップの職員所持等の効果が見られたのではないかと考えている。

●栄養管理

健康管理に関しては、医療・支援側との連携を保ちつつ、管理栄養士の管理の下で利用者一人ひとりに合った食事提供を行っている。

特別食の内容はダイエット食・嚥下食等があり、その他食欲不振・偏食傾向の強い利用者には代替食の提供や調理法の工夫、栄養強化の必要がある利用者には栄養補助食品を使用、褥瘡のある利用者には予防のために蛋白強化した献立にしている。年々、利用者の高齢化による嚥下力が低下している利用者が増え、嚥下（ペースト）食・軟菜食・極刻み食等、利用者の嚥下状況に合わせた食事の提供が必要になってきている。

また、栄養ケアマネジメントにより、栄養士だけでなく他職種との連携をとりながらトータル的な栄養ケアを行っている。定期的なスクリーニングや栄養ケア計画の見直しを行う事により、よりきめ細やかな栄養サポートを心掛けている。

献立作成時は旬の食材の取り入れ、利用者の要望を取り入れた季節感のある行事食を提供している。

また震災時への対応として、7日分の非常食と飲料水を確保し、防災倉庫に備蓄している。

施設利用者にとって、食事は一日の楽しみの大きな部分を占めているため、今後も栄養管理・衛生管理・感染予防をしっかりと行い、利用者に喜んでもらえるような食事を提供していきたい。

※食事提供の状況

2018/04 現在

盛り付け量	主食	カロリー	男	女	合計
極々小	60g	1450kcal	0	2	2
極小	100g	1550kcal	0	7	7
小	120g	1650kcal	6	13	19
中	150g	1750kcal	4	2	6
大	200g	1950kcal	6	1	7
特大	250g	2150kcal	7	1	8
超特大	300g	2350kcal	1	0	1
合計			24	26	50

種類		男	女	合計
特別食	ダイエット食	0	3	3
	コンニャクライス	0	2	2
	低脂肪牛乳	1	0	1
	糖尿食	0	0	0
	心臓病対応食（塩分制限）	0	0	0
	極刻み食	10	12	22
	刻み食	2	1	3
栄養補助食品	一口大	1	0	1
	嚥下ミキサー食	2	2	4
	微量栄養素補助食品	1	2	3
	高カロリー食品			

(3) 安全・安心の生活ができる環境づくりを行う。

①危機管理委員会

今年度も、サービス管理責任者、主任を含め5名の職員での『危機管理委員会』を組織し、毎月委員会を実施した。委員会での取り組みは以下の通り。

●月単位の事故報告書、ひやり・はっと報告書の集計・分析・再発防止策の検討

…特に怪我等に関わる重大な事例については、リスク分析票を作成し事故の要因と対策を検討し、文書やケア会議等で報告・周知を図ってきた。

●事故防止策の質を高めるための委員会内学習会の実施

…食事や入浴時の介護技術、嚥下等について触れてきた。

②感染症対策

インフルエンザやノロウイルス感染対策として、対応マニュアルの整備・汚物処理ワゴンの導入・職員への研修・手洗い時のふき取りに使用するペーパータオル使用などを行ってきた。その成果もあり、利用者への感染は見られなかった。

③防災訓練

今年度も、万が一に備えて毎月計画的に防災訓練を実施した。

実施月日	訓練実施内容
4月4日	突発的地震を想定しての避難訓練を実施
5月10日	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施 水消火器による消火訓練を実施
6月22日	南海トラフ・東海地震を想定しての法人合同防災訓練を実施 四季の郷では非常食喫食、生活水確保訓練、発電機操作訓練を実施
7月12日	夜間火災を想定しての避難訓練を実施
7月26日	風水害（河川氾濫・土砂災害）を想定
8月23日	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施 水消火器による消火訓練を実施
9月13日	安否コールを使用し送受信訓練及び非常招集訓練を実施 夜間の突発地震を想定しての避難訓練を実施
10月6日	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施
11月27日	平日の日中の突発地震を想定しての避難訓練を実施
12月6日	平日の日中火災を想定して、抜き打ち避難訓練を実施
1月11日	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施 水消火器による消火訓練を実施
2月15日	湖東消防署消防隊員によるAEDを用いての心肺蘇生訓練を実施
3月6日	平日の日中火災を想定して、抜き打ち避難訓練を実施

(4) 家族や地域の方々との関わりを深め、障害者福祉の地域拠点となるように努める。

①地域交流委員会

今年度も、主任を含め5名の職員での『地域交流委員会』を組織した。委員会での取り組みは以下の通り。

●四季の郷保護者会の事務局機能

…保護者会役員会や保護者会行事の補助等の保護者会との橋渡しを行った。

●行事ボランティアの募集・受け入れ

…秋祭りやクリスマス会等の行事で手伝いをしてくれるボランティアの募集について、近隣大学に募集依頼を行った。また一般のボランティアは職員を通して募集・依頼をすることが多かった。

●四季の郷秋祭りの企画・運営

…地域自治会長への一泊施設長委嘱や近隣の業者の出店、保護者会主催のバザーの開催、地域グループのアトラクション等、四季の郷の行事の中でも一番地域との関わりや連絡調整が必要な行事の企画・運営を行った。

●昴会ホームページの更新作業

②実習生の受け入れ

今年度も積極的に実習生の受け入れを行ってきた。

※実習生受け入れ実績 (平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月／実習受け入れ順)

所属等	目的	実習期間	実習日数	受入人数
静岡県立大学短期大学部	保育実習	6月5日～6月17日	12	1
浜松学院大学	保育実習	7月3日～7月15日	12	2
浜松学院大学短期大学部	保育実習	7月3日～7月15日	12	2
聖心女子専門学校	保育実習	7月18日～7月29日	11	2
聖隷クリストファー大学	介護実習	8月7日	1	1
聖隷クリストファー大学	介護実習	8月8日	1	1
浜松学院大学	保育実習	9月4日～9月16日	12	2
静岡県立大学短期大学部	保育実習	10月2日～10月14日	12	1
静岡子ども福祉専門学校	介護実習	10月23日～10月27日	5	2
静岡大学	教員免許取得	11月6日～11月10日	5	1
東海大学短期大学部	教員・保育士免許状取得	11月6日～11月17日	11	2
東海大学短期大学部	教員・保育士免許状取得	11月20日～12月1日	11	2
浜松医療福祉専門学校	体験実習(歯科衛生士)	5月(1日ずつ)	6	12
実習受け入れのべ日数			111日	
実習受け入れのべ人数			31名	

③短期入所

●受け入れ実績

平成 29 年度の受け入れ延べ日数実績は以下の通りである。

月	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	月計
4	0日	6日	16日	43日	52日	2日	119日
5	0	4	17	42	63	0	126
6	0	4	7	40	59	0	110
7	0	6	0	45	69	2	122
8	0	5	0	44	66	0	115
9	2	3	0	44	62	0	111
10	6	6	0	44	75	0	131
11	10	6	2	47	65	0	130
12	10	17	2	39	62	0	130
1	13	23	4	43	59	0	142
2	0	21	0	33	64	0	118
3	9	24	2	36	62	0	133
計	50日	125日	50日	500日	758日	4日	1487日
合計	平成 29 年度 のべ 1487 日 / 172 人 (男 137 人・女 35 人)						
	平成 28 年度 のべ 1281 日 / 174 人						

④日中一時支援事業

●受け入れ実績

平成 29 年度の受け入れ実績は以下の通りである。今年度は、磐田市の利用者は見られなかった。

	浜松市	磐田市

	実人数	のべ時間	実人数	のべ時間
	84人	3758時間	0人	0時間
	平成29年度 実人数 84人 / のべ 3758時間 平成28年度 実人数 89人 / のべ 3799時間			

(5) 職員のスキルアップに努める。

①職員研修の実施

今年度も、積極的に園内研修および外部研修を実施してきた。

園内研修については、今年度は実務・実践的な内容と、前年度の反省を受けて外部研修の報告（フィードバック）を重点に研修を行ってきた。前年度に引き続き、利用者家族から利用者の成育歴や家族の思い、四季の郷への思いを聞いたことはとても良い機会となった。

外部研修についても、知的障害者福祉協会や社会福祉協議会主催の研修を中心に、経験や関心、ケース担当利用者との絡みでの人選を行い参加につなげた。

●園内研修

日付	研修内容	参加者
4月26日	『課業活動のあり方』	7名
5月31日	大塚薬品工場見学	9名
6月29日	外部研修報告	全職員（17名）
7月26日	施設見学（高齢利用者への支援） 大井川寮＜焼津市＞	5名
8月29日	外部研修報告	9名
8月30日	外部研修報告	11名
9月12日	『紙オムツの構造と使用』 講師：王子ネピア株式会社アテンダー	6名
9月14日	外部研修報告	11名
10月3日	施設見学（自閉症利用者の支援） さつき学園＜御殿場市＞	5名
11月29日	・外部研修報告 ・『意思決定支援について』	16名
12月27日	・外部研修報告 ・『高齢利用者の支援について』	全職員（19名）
1月19日	『歯の健康研修』 講師：浜松市口腔保健医療センター 歯科衛生士	13名
2月5日	保護者講話 『利用者の気持ちを表すもの』	19名
3月5日	『介護技術（移乗、移動）』 講師：静岡県介護福祉士会 介護福祉士	9名
3月15日	法人人権擁護研修会 講師：四季の郷施設長	法人 45名

*全職員・・・把握職員、夜勤・早夜勤入り の職員を除く

●外部研修

日付	研修内容	参加者
8月8日・9月5日 10月4日・11月7日	介護・看護リーダーのための指導力向上講座	支援員 1名
10月12日・10月13日 11月7日・11月18日	自閉症支援講座 青年・成人期知的障害コース	支援員 1名

10月16日	社会福祉法人施設事務職員 会計実務専門講座	事務員1名
11月1日	総合防災訓練視察	支援員1名
11月16日	社会福祉法人の税務講座	事務員2名
11月27～28日	県知協障害者支援施設部会研究集会	施設長・ 支援員1名
12月1日	サービス管理責任者資質向上研修	サビ管
12月4日	高齢者虐待防止と実践アプローチ	支援員1名
12月8日	県知協栄養部会研修会	栄養士
12月12日	社会福祉法人 財務管理講座	事務員2名
1月25～26日	県知協施設長等研修会	施設長
1月29～30日	日知協全国障害者支援施設部会	施設長
2月9日	西施連研修会	支援員1名
2月16日	社会福祉法人 決算実務講座	事務員2名
3月6日	浜松施設協研修会	主任1名
3月11日	自閉症支援のための評価セミナー	支援員1名

第一大山荘

1. 入居者の状況（平成30年3月31日現在）

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Aさん	男	68	平成14年10月	四季の郷（生活介護）
2	Bさん	男	61	平成14年10月	大山ファーム（就労継続支援B型）
3	Cさん	男	66	平成21年10月	大山ファーム（就労継続支援B型）
4	Dさん	女	61	平成22年5月	パルステック工業株式会社就職

※H29年度は入退去者なし。

2. 支援の状況

- ・生活の主体者は利用者であることを意識した支援を行なった。グループホームが他人との共同生活の場でもある以上、お互いにある程度のルールを設けることはあったが、「利用者一人ひとりの暮らし」を基本に、情報提供と利用者の自己選択・自己決定を尊重し、そして本人の生活スタイルや自由、要望に応えることを大切に支援を行った。
- ・めりはりのある日常生活送れるように、平日は日中活動先の大山ファーム、四季の郷、就労先のパルステック工業と連絡調整を行い、連携・協力して支援を行った。また、土日は地域で「自分らしく、普通の暮らし」ができるように、法人の行事や地域の行事・催し物の情報提供をおこなった。
- ・「事故報告」については、2件の報告があった。1件はハチに刺された事故だったので受診した。「ひやり・はっと」についての報告はなかった。第一大山荘の利用者は、一人で外出・行動ができる利用者ばかりなので、夜間や遠方への外出時についての把握は困難であった。
- ・感染症については、感染対策として、インフルエンザ予防接種及び日常的な予防に努めた結果、今季はインフルエンザを発症する入居者の方は見られなかった。
- ・家族（成年後見人等）とは、面談や必要な連絡、帰宅等の機会を通して連携を保った。しかし、利用者全員宿泊を伴う帰宅はなくなった。
- ・地域の方々との関わりについては、自治会に入会し、地域行事に積極的に参加した。地域の方も、行事参加への誘い掛けをして頂くなど、地域住民の一人として接して頂いていると感じている。
- ・スキルアップについては、法人の職員研修や外部研修、グループホーム連絡会などに参加

した。その研修内容については、職員会議内の時間を使い他の職員へ報告させた。

3. 支援体制

- ・支援体制としては、管理者、世話人（パート職員1名）、補職職員（1名）が日常生活支援に当たり、地域生活を送る上で必要な買い物などの外出支援、食事支援、通院付添等の医療支援の他、相談事やメンタル面のケア、日中活動場所との連絡調整など多岐に渡った。また、バックアップ施設の四季の郷職員、日中活動先の大山ファーム職員、パルステック工業の担当者とも連携・協力して支援を行った。パルステック工業では、平成30年度の再雇用が決定した。

4. 健康支援

- ・毎日の検温と血圧測定、年2回の健康診断を通して健康管理に努めた。また、疾患のある入居者のために日常的な服薬管理、通院支援を継続した。また、日中活動先での歯科検診や年2回の健康診断の結果を踏まえ、必要な利用者の受診支援を行った。

5. 行事

- ・第一大山荘全体での行事は計画していないが、昂会の各事業所行事や第二大山荘・第三大山荘、地域の行事等に関する情報提供を行い、希望に応じて参加させてもらった。
- ・「第17回わかふじスポーツ大会」へ3名の入居者がボウリング競技に出場した。1名の方は平成29年全国障害者スポーツ大会（笑顔つなぐえひめ大会）に出場した

6. 会議・研修

- ・主に支援を行う世話人は非常勤職員の1人配置のため、日常的に利用者の状態や運営について管理者と密に話をするように努めた。また、法人の職員研修や外部研修、グループホーム連絡会などにも参加した。

7. 防災の取り組み

- ・自動火災報知設備を設置した。
- ・防災訓練実施状況は以下の通り。

5月15日	夜間の火災を想定しての避難訓練
7月26日	法人防災訓練（安否コールの受配信訓練）及び風水害等の避難訓練
9月9日	地震を想定しての避難訓練
2月14日	防災講習会（GH・四季の郷合同訓練）

第二大山荘・第三大山荘

1. 入居者の状況（平成30年3月31日現在）

第二大山荘

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Aさん	男	70	平成21年9月	引佐草の根作業所
2	Bさん	男	66	平成21年9月	細江あすなろ作業所
3	Cさん	男	54	平成21年9月	細江あすなろ作業所
4	Dさん	男	52	平成21年9月	大山ファーム
5	Eさん	男	43	平成21年9月	細江あすなろ作業所
6	Fさん	男	71	平成24年3月	大山ファーム

第三大山荘

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Gさん	女	72	平成21年9月	大山ファーム
2	Hさん	女	57	平成21年9月	大山ファーム
3	Iさん	女	52	平成21年9月	細江あすなろ作業所
4	Jさん	女	51	平成28年4月	大山ファーム
5	Kさん	女	67	平成29年6月	大山ファーム
6	Kさん	女	67	平成27年6月	細江あすなろ作業所

※平成29年度は1名（女性）の方が退去され、1名（女性）の方が入居者された。

2. 支援の状況

- ・障害者差別、虐待防止、権利擁護に対する支援を求められる中、グループホームでは、常に利用者の人権を守る意識を持ち、社会福祉法人昂会の基本理念に沿って「生き生きとした暮らしの実現」「地域での主体的な暮らし」を目指し支援を行ってきた。グループホームが他人との共同生活の場でもある以上、お互いにある程度のルールを設けることはあったが、「利用者一人ひとりの暮らし」を基本に、本人の生活スタイルや自由、要望に応えること、自己選択・自己決定支援、そのための情報提供を大切にされた支援を行った。
- ・めりはりのある日常生活送れるように、平日は日中活動先の大山ファーム、あすなろ作業所と連携・協力して支援を行った。また、土日は地域で「自分らしく、普通の暮らし」ができるように、法人の行事や地域の行事・催し物の情報提供と参加できるように支援した。
- ・ひやり・はっと、事故については、利用者が怪我や事故に遭わないように、日中活動先への送迎、外出時の付き添い支援を行ったこともあり、今年度も受診を伴う事故は無かった。
- ・感染症については、感染対策としてインフルエンザ予防接種及び日常的な予防に努めたため、感染者は出なかった。
- ・家族（成年後見人等）とは、年2回の個別面談や必要な連絡、帰宅等の機会を通して連携関係を保ってきた。今年度の泊りの帰宅ができたのは、3名だけであった。

3. 支援体制

- ・管理者、生活支援員、世話人が日常生活支援・介助に当たり、地域生活を送る上で必要な買い物などの外出支援、通院付添等の医療支援の他、相談事やメンタル面のケア、日中活動場所との連絡調整など多岐に渡る支援を行った。また、日中活動先である四季の郷の職員、大山ファーム職員、あすなろ作業所職員、草の根作業所職員、看護師、栄養士等とも連携・協力して支援を行った。
- ・少数職員体制で支援を行なっているグループホームでは、職員個人の経験や知識、生活観が支援内容に直結しやすい特性があるため、職員間で支援目標や方針の共有・理解を図るよう、会議の有効活用や小まめな情報交換・意見交換を心掛けた。入居者の半数（6名）が65歳以上となり高齢化が進んでいるなか、グループホームの高齢者支援は今後の課題になっている。

3. 行事

- ・第二大山荘・第三大山荘の行事としては、個々人の余暇支援と合わせて、季節を感じることができる外出、地域との交流等、日々の生活が単調にならないよう行事計画や情報提供を心掛けた。また、地域の祭りにも積極的に参加した。参加は、その都度希望者を募った。

主な行事は以下の通り。

えんしん映画招待、花火、四季の郷夏祭り・秋祭り、四季の郷秋祭り食事外出、大晦日行事、初詣、お花見、誕生会、おやつ作り、地元行事

4. 健康支援

- ・毎日の検温を実施し、日々の体調観察に努めた。定期的に精神科と呼吸器科、循環器科の通院に加え、整形外科へ通院している入居者も加わった。定期通院による治療及び服薬管理支援を継続し、また、受診が必要な疾患を発症した入居者には、通院介助を実施・対応した。また、年2回の健康診断の結果や日中活動先での歯科検診を踏まえ、必要な利用者の受診支援を行った。

5. 防災の取り組み

- ・火災等災害発生防止に努めるとともに、定期的に火災、地震等の災害を想定した訓練を実施した。また、昴会法人合同防災訓練及び四季の郷と合同防災講習会に参加した。
- ・防災訓練実施状況

4月16日	火災報知器・防災器具取り扱い訓練
6月11日	休日の昼間の火災を想定しての避難訓練
7月26日	安否コール受発信訓練（法人合同訓練）
8月10日	夜間の避難訓練及び召集訓練（夜間実施）
9月3日	総合防災訓練（四季の郷との連携訓練）
11月5日	社会福祉施設総合防災訓練（四季の郷と合同訓練）
2月14日	防災講習会～心肺蘇生法訓練～

6. 会議・研修

- ・月1回、利用者の支援に関わる職員会議を行った。
- ・研修については、職員会議内の時間を使い、「外部研修の報告」「防犯対策」「感染予防」「虐待防止」をテーマにした内部研修を実施した。
- ・外部研修については、全国グループホーム等研修会（1名）、全国知的障害福祉関係職員研究大会（1名）、浜松共働学舎親の会研修（2名）等に参加した。また、浜松グループホーム連絡会では、「施設見学」や「移動支援についての講習」に参加した。その研修内容については、職員会議内の時間を使い他の職員へ報告を行った。

細江あすなろ作業所

1. 利用者状況

平成30年3月31日の利用状況は以下の通りである。

①年齢別

年 齢	男性	女性
70代	0	1
60代	2	1
50代	2	1
40代	2	2
30代	0	1
20代	4	2
10代	1	1
計	11	9
平均年齢	41.2歳	

②障害支援区分別

障害支援区分	人 数
1	0

③居住場所別

居住場所	人 数
自 宅	12

2	0
3	3
4	6
5	9
6	2
計	20

グループホーム	6
障害者支援施設	2
計	20

2. 活動状況

年間開所日数 254日

●生産活動

高年齢と障がいの重度化のなかで生産活動が難しくなった。企業からの下請けに関しては職員が関わる部分が増え、量的にもこなすことが困難になった。自立課題として、割りばしの袋詰めやフックの組み立てを作業として用意する。

ビーズを使用しての作品づくりや布を裂いて織る咲織りも女性が行っていたが、担当職員の退職に伴い中止にせざるを得ない状態も見られた。

- 下請作業
 - ・エイテック（有）・・・自動車部品の組み付け
 - ・野澤よしお政務調査事務所・・・機関紙の封筒入れ
- 自主製品
 - ・せっけん作り
 - ・ぼかし
 - ・咲織り
 - ・ビーズ通し
- その他
 - ・アルミ缶の回収

【自主製品の販売】

- 販売方法
 - 直接販売
 - ・作業所・地域農協祭・わ西部地区会参加賞
 - ・浜松南ライオンズクラブ・遠州教会
 - 委託販売
 - ・細江町社協・三ヶ日町社協・奥浜名湖商工会・咲夢茶店
 - ・まるたまとんきい・渡辺精肉店・竜ヶ岩洞

●健康維持のための活動

口腔ケアについては引き続き力をいれ、昼食後の歯磨きは職員による仕上げが定着した。歯科受診の苦手な利用者には、同じ歯科器具を用意して器具に慣れてもらうことにした。現在はハブラシ以外に、ワンタフトや歯間ブラシなど利用するところまでできている。利用者さんのブラッシングも以前より細かい動きになった。年1回、歯科衛生士さんによるブラッシング指導と、年3回、嘱託医による健康相談を行った。

また、筋力の維持のため、ラジオ体操・ロコトレ体操・リンパ体操・歩行にも力を入れ個々のペースに応じた歩行に努めた。

●表現活動

言葉では表現できない心の叫びや想いを音楽を利用して表現する活動に力をいれ、毎月4人の講師による音楽療法を取り入れた。発表の場を多く取り入れたり、地域での活動、地元の高齢者施設や障がい者施設との交流など、表現活動を通して地域との交流も積極的に行った。

●個別での対応

高年齢と重度化のなか、集団での行動も難しくなっている。

29年度の新たな試みとして個別外出の機会を年2回設け、利用者さんの要望に叶った支援に努めた。

多くは、買い物・食事といった内容がほとんどであったが、1対1もしくは少人数で

の外出を行うことで、職員と利用者という間柄ではなく利用者さんに寄り添う支援を意識して行った。

●行事等

- 4月 健康診断
- 5月 保護者会
- 6月 2町ボーリング大会 日帰り旅行
- 7月 引佐草の根作業所夏祭り（フラダンス）
- 8月 サーラシティ浜松においてダンス披露 元気ライブ（ワークピア磐田）
- 9月 ふれあいスポーツ・レクリエーション大会 防災訓練
- 10月 岩瀬さんによる腹話術 陽なたぼっこさんとフラダンスにて交流
- 11月 ほのぼのマーケット 歯科健診
- 12月 地区防災訓練 歯科ブラッシング指導 地区社協クリスマス会
あすなるクリスマス会 大掃除 忘年会
- 1月 農協祭 アクトシティにてイベント参加 北区ふれあい交流会
- 2月 地区作品展
- 3月 ほのぼのコンサート 花フェスタ（フラワーパーク）

3. 研修

- 6月9日～10日 静岡県作業所連合会・わ西部地区職員研修会・・・職員全員参加
テーマ① 貧困問題を「学ぶ・伝える」レクチャーセミナー
貧困問題には様々な要素が絡んでおり、ソーシャルワークとも常に関わっている。大切なことは社会的弱者と呼ばれる人たちが安心して暮らせる社会は、全ての人々にとって暮らしやすい社会である。
テーマ② 差別・排除と障害者問題を視点に、ケアの本質について
テーマ③ 地域や職場における合理的配慮の推進について
支援をするにあたって本人抜きで行われてしまうことが多い。そこにいかにコミュニケーションが必要か。支援の本質はコミュニケーションである。問題行動と言われているなかにも必ずひとりひとり意味がある。
- 9月1日 施設長研修会・・・管理者参加
テーマ 創造思考が明るい未来を切り拓く
福祉実現のためのソーシャルワークは、「しあわせになるためのワクワクすることをどう仕掛けて（自分も楽しんで）いくか」ということに尽きる。社会福祉法人の地域貢献事業が義務づけられた今、私たちは目の前の利用者に、職員に、そして地域に、社会にどのように「わくわく」を仕掛けることができるのか。
- 12月9日 職員研究集会・・・管理者、サービス管理責任者、支援員3名参加
テーマ① 「私たちの声を聴いて」
9名の利用者さんが発言。その人なりに楽しみをみつけて暮らしている様子がわかる。特に一人はヘルパーさんに介助してもらい積極的に生きている様子がよくわかった。
テーマ② 隠された財宝 多彩な才能を作業所でどう生かすか
自分という「お宝」をどのように生かして仕事がついのしめるか。自分のキャリアをどのように生かそうと考えているのかをグループディスカッションする。
- 2月22日 静岡県作業所連合会・わ研修会・・・管理者、サービス管理責任者
テーマ① 福祉の中のアート性

デザインとは整理する役割がありそれが機能美につながる。世界からはずれた人を美しく整えるという観点ではデザインは相反したもの。わからないもの、もやもやするもの、何を考えているのかわからないものを考えていくのがアート。

テーマ② ケアにおける表現、美しさとは

障害とは関係が切れた状態をいい、無理がいえる関係が必要であり、依存ができなくなったときに障害が生じる、依存ができることでそこから連携が生まれる。

新人職員にはまず手を繋いで歩くことを勧める。そこから関係性が産まれる。変わるべきは、苦勞すべきはまずは支援者である。

大山ファーム

1. 利用者状況

月	在籍者 (名)		1日の平均 出勤者数(名)		稼働率 (%)		契約者		終了者		契約終了理由
	移行	B型	移行	B型	移行	B型	移行	B型	移行	B型	
4	1	30	0.9	24.4	15	110	0	2	0	0	
5	1	30	1.2	24.1	21	109	1	0	0	3	長期入院/B→移行
6	2	27	1.8	23.8	31	108	0	0	0	0	
7	2	27	1.3	23.7	22	107	0	0	0	0	
8	2	27	1.7	22.9	29	104	0	0	0	0	
9	2	27	1.7	23.4	29	106	0	0	0	0	
10	2	27	1.8	23.3	31	106	0	0	0	0	
11	2	27	1.8	23.3	30	106	0	0	0	0	
12	2	27	1.8	22.1	30	103	0	0	0	0	
1	2	27	1.8	23.2	30	105	0	0	0	0	
2	2	28	1.3	24.5	22	111	0	1	1	0	
3	1	28	1.0	23.8	16	108	0	0	0	0	
平均			1.7	23.4	25.5	106.9					

(男性：19人平均年齢歳／女性：10人平均年齢45.1歳)

(1) 利用定員

○就労移行支援(6名)・就労継続B型支援(22名)

(2) 新規利用者内訳

○地域からの利用…3名(就労移行支援1名・就労継続支援B型3名)

相談支援事業所や特別支援学校等と連携を図りながら、継続的に就労移行支援希望者を募った。5月、大山ファーム就労継続支援B型に所属していた利用者が就労移行支援の所属となった。

就労継続支援B型は特別支援学校高等部の実習を受け入れた時期に将来の進路先としての希望があったため、利用定員が超過しないように調整を行った。

(3) 退所者内訳

○支援機関変更…3名(就労移行支援1名・就労継続支援B型3名)

退所した2名は不穏な状態のため、在宅・グループホームでの対応が困難になり、入院治療を行う。回復の兆しが見えず、長期化(3ヵ月以上)したため、保護者や成年後見人の同意を得て退所の手続きを行った。

2. 支援の状況

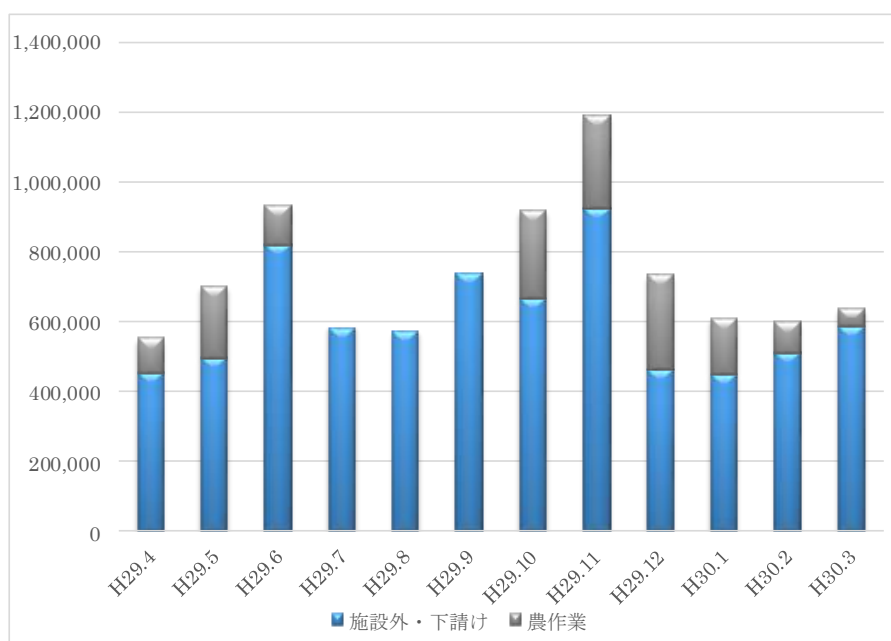
(1) 作業収入割合

●平成29年度総収入 9,553,926円(平成28年度総収入10,791,965円)

(2) 支払工賃

●工賃総額 5,359,860円

(平成28年度工賃総額) 5,337,458円



●月一人あたりの平均工賃

就労継続支援B型 15,459 円

(平成 28 年度平均工賃) 就労継続支援B型 15,662 円

(3) 施設外作業

実習先事業所	作業内容	備 考
(福)おおぞら療育センター	衣類整理業務	
(福)四季の郷	清掃・衣類整理業務	
(医)西山病院	庭園管理業務	
(株)T G	自動車部品の組み付け	
めせあファーム	野菜の収穫・除草等	
宮木農園	野菜の収穫・除草等	

就労に必要なスキル（挨拶やマナー）を経験・実践する場として施設外作業を位置付け支援を行った。また、グループ単位で作業を進めていくことで連携や協調性を育むことができた。

(4) 下請け作業

委託先	作業内容	備 考
(株)T G	自動車部品の組み付け	
(有)グリーンライフ	葉ネギの選別・梱包	
(有)船越造園	除草作業	不定期
(株)ダイセン	物品仕分け・梱包	
大五運送株式会社	梱包・箱組	
やまとラクノープ	玉ねぎの選別・梱包	
法林寺	除草・清掃作業	月に 1 回
優先調達	除草作業	旧南庄内幼稚園 ・西部衛生工場等

利用者の重度化・高齢化に伴い新たな委託先・作業を開拓したり、作業手順（費用対効果等）を見直したりして委託作業の整理を行った。

障害者優先調達法により、優先的に公的機関の除草業務等を請け負うことができるようになった。新しく草刈機（乗用型）を導入したことにより、工期の短縮を図ることができた。

(5) 農作業

販売・委託販売	販売内容・取引先	備 考
小売販売	地域交流まつり等各行事 無人販売所	ミニトマト狩り ふぁ～まるしえ
委託販売	J Aとぴあファーマーズマーケット ヴィラ東山苑 るびなすの畑	三方原店・浜北店 高齢者施設

栽培作物（ミニトマト・干し芋・ふき等）

前年度と同様に近隣の農家より作付け時期を1ヵ月程度、早めたことで品数が薄い9月から出荷することができた。そのため、「大山ファーム」のミニトマトを認知してもらえるきっかけとなった。売れ筋であった楕円形のミニトマト「アイコ」の栽培面積を増加させた。冬場に日中の気温が上昇しなかったことが影響して2月、3月の収穫量が減少した。

無人販売所の「ふぁ～まるしえ」（大山ファームのミニトマトを中心に農作業等で関係のある農家の作物も販売）は毎日30～50点ほどの売り上げがあった。また、除草作業を通して関係のあった成子幼稚園の園児をミニトマト狩りに招待するなど自主製品のミニトマトを通してたくさんの笑顔を見ることができた。

3. 健康支援

希望者を募って4月に健康診断、12月に歯科検診を大山ファームで実施した。

12月から通所時の検温や換気、湿度の調整を行った。また、利用者にもうがいや手洗い等の必要性を伝えると共に継続的に意識できるようにポスターを掲示した。インフルエンザが流行することはなかった。

4. 防災・危機管理・リスクマネジメント

年間、3回の防災訓練を行った。（6月「法人防災訓練」9月「総合防災訓練」11月「福祉施設防災訓練」）また、危機管理や感染症、風水害、交通事故（送迎）各種マニュアルの整備、確認を行った。

「ひやり・はっと事例報告書」や「事故報告書」が提出された際は、経緯や改善策を検討して再発防止に努めた。

5. 行事

誕生者がいる月には午後の休憩時間に誕生会を実施した。また、正月休み明けには買い出しから調理までを利用者と一緒に行う新年会を行った。平成30年2月に第7回目となる地域交流まつりを『大山ファーム地域交流委員会』（地元住民及び地元企業、昇会職員から委嘱）と連携を取り、東大山桜まつりと同時期に開催した。イベントとして大山ファームのミニトマト狩りやウォークラリー等を行った。

6. 会議・研修

調整会議（委託作業等に関わる調整事項…1回/週）支援員会議（利用者支援に関わる内容…1回/月）モニタリング会議（個別支援計画に関わる内容…2回/年）を行った。

内部研修は「個別支援計画作成（5ピクチャーズ）」「利用者の権利擁護」を行った。

外部研修については行政や静岡県知的障害者福祉協会の研修へ積極的に参加して関係機関、事業所のつながりを意識した。支援プログラムの質の向上のため、障害者職業・生活支援センターが主催した就職支援や定着支援の方法等の研修の機会も持った。

1. 利用者状況

月	在籍者 (名)	1日の平均 出勤者数 (名)	稼働率 (%)	契約者	終了者	契約終了理由
	B型	B型	B型	B型	B型	
4	1	1	5	1	0	
5	6	3.0	15	5	0	
6	9	5.0	25	2	1	自宅療養
7	8	4.8	24	2	0	
8	10	4.8	24	0	3	デイケア就労A
9	7	3.5	17.5	0	0	
10	7	3.8	19.3	0	1	一般就労
11	7	3.5	17.5	1	0	
12	9	3.5	17.5	2	0	
1	11	4.5	22.5	2	1	就労B
2	10	3.8	19	0	1	自宅療養
3	11	4.7	23.5	2	0	
平均	8	3.74	22.2	17	7	

(1) 利用定員

就労継続B型支援 (20名)

(2) 新規利用者内訳

地域からの利用…17名 (在宅13名・就労継続支援A型1名・一般就労1名・病院2名)

相談支援事業所等と連携することで新規利用者の確保に努めた。地域からの利用者の特徴としては過去に就労経験があり、障害種別としては精神障害のみ、あるいは軽度の知的障害の方々であったので作業内容や支援方法に工夫が必要であった。

特別支援学校の就労実習や見学を実施していることから、卒業後の進路先の一つとして認識してもらえるようになった。平成30年度、卒業生4名が利用する予定。

一方で、退所者も見られた。その理由は、精神的に不安定になり自宅療養(2名)・病院から退院後の利用予定であったがデイケアに変更(1名)・就労A型へ移動(1名)、就労B型へ移動(2名)、一般企業に就労(1名)であった。

2. 作業状況

(1) 作業収益状況・割合

合計 1,600,732円

国土興産 リサイクル下請け 475,568円 (全体の29.7%)

LED水耕・露地野菜、ファーマーズマーケット売り上げ 1,059,364円 (66.3%)

イベント売り上げ一般・職員販売 65,800円 (4%)

(2) 支払工賃

月一人あたりの平均工賃 3,399円

(3) 作業状況

下請け作業 昭栄商会(株)・国土興産 プラスチック製品のリサイクル前処理

・4月当初は、リサイクル作業を行う人員も少なく時間がかかっていたが、利用者が増えていくことにより作業能率も大幅に上がっていった。資材確保等の理由で今以上の増産ができないため、次年度に向けて新規の仕事を探す必要が出てきている。

農作業 野菜のLED水耕・露地栽培、ファーマーズマーケットでの販売

・LED水耕に関しては、6月に新規プラント3台を導入し、適宜稼働しGリーフレタス、サニーレタスの栽培を実施している。夏場冬場の光熱費がかかり、なかなか収益に結びつくことが出来なかった。

・LED昭光の時間を夜間のみに変更し、経費削減を実施した。

・一般販売、職員、四季の郷秋祭り、地域交流祭り、あすなろほのぼのマーケットでの

店頭販売実施。

3. 研修

施設内研修

①6月30日

障害特性に応じた理解と支援と知的障害を理解する・・・全職員参加

②11月2日

虐待防止研修・・・全職員参加

③2月6日

障害特性に応じた理解と支援、精神障害を理解・・・全職員参加

新人研修

5月5日、6月9日、11月8日

記録の意味と方法、業務の内容、障害者理解

外部研修

①6月16日

精神障害を理解・・・支援員1名

すばる

1. 受け入れ実績

今年度も相談支援事業は、実際に利用するサービスも含めたサービス利用等計画書の作成とモニタリングを行う自立支援給付内の特定相談支援事業(計画相談)と、浜松市から委託を受けた障害者相談支援事業の2本立てで事業を行った。

平成29年度の受け入れ実績は、以下の通りである。

①特定相談支援事業(計画相談)

※計画書作成とモニタリング実施の請求数(件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画作成	50	11	6	18	5	13	3	11	10	19	12	22	180
モニタリング	32	38	34	35	27	47	31	36	26	28	40	66	440

②浜松市委託障害者相談支援事業

(1) 実施日数 256日

(2) 支援方法 <のべ数>

訪問相談	来所相談	同行支援	電話相談	電子メール相談	個別ケア会議	関係機関調整	その他	合計
297	32	133	694	28	49	1013	6	2252

(3) 支援内容 <のべ数>

支援内容	件数	支援内容	件数
福祉サービスの利用に関する支援	381	家計、経済に関する支援	217
社会資源の活用に関する支援	286	生活技術に関する支援	78
障害や病状の理解に関する支援	54	就労に関する支援	79
健康・医療に関する支援	343	社会参加に関する支援	0
不安の解消・情緒安定に関する支援	288	余暇活動に関する支援	2

保育・教育に関する支援	38	権利擁護に関する支援	59
家族関係・人間関係に関する支援	395	その他福祉に関する支援	32
		合 計	2252

(4) 障害別利用者〈実人数〉

	知的	身体	精神	発達	重症 心身	高次脳 機能	難 病	その他	計
障害者	38	25	67	3	1	3	2	3	127
障害児	1	0	1	0	0	0	0		0

2. 受け入れの状況

計画相談、委託相談とも、それぞれ専任1名・兼務1名、計3名の職員を配置して事業を実施した。

まず、計画相談については、計画作成件数では前年度の1.5倍、モニタリングは5%増の状況であった。委託相談は、前年度よりも、ケース毎の対応が多くなっていることと、専門的な知識が必要となる困難ケースがかなり多くなったことが特徴であった。

夫婦や親子で何らかの障害状態で明日の暮らしにも不安を感じるケースや、何らかの問題が生じているのだが相談支援事業所や他の機関の対応・支援を受け入れてもらえないケース、介護者（家族等）に急病や病死等で独居が困難になったが入所・入居等で受け入れる施設・事業者が見つからないケースが増加傾向であった。

今年度も、住み慣れた地域での生活の継続のための環境整備を目的とした西区障害者自立支援連絡会の運営に積極的に関わってきた。毎月1回の事務局会議や事例検討会、全体会の企画・運営を担ってきた。

3. 研修等

困難ケース等の職員間の情報共有や支援・対応の確認は、日々の業務の間で実施してきたが、朝の業務に出掛ける前に打ち合わせ会を実施してきた。

以下は、外部研修の内容。

月	実施日・テーマ	主 催
5	12日 コミュニティ・ソーシャルワーカー研修会	浜松市社会福祉協議会
9	26日 精神障がいを理解するための研修会	浜松市精神保健福祉センター
12	11日 浜松市相談支援専門員等研修会	浜松市相談支援専門員連絡会
	14日 精神障害者地域移行支援事業等研修	浜松市障害保健福祉課
2	8日 賃貸住居入居促進支援研修会	静岡県精神保健福祉士会
	16日 医療及び介護連携連絡会事例検討会	浜松市高齢者福祉課

事業報告の附属明細書

平成 29 年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していません。

社会福祉法人 昴会